

第1回 千歳市かわまちづくり検討会 議事要旨

■日 時：令和6年1月29日(月) 13:30~15:30

■場 所：千歳市総合福祉センター402号室

■出席者：

千歳市かわまちづくり検討会委員 13名

堀野会長、菊池副会長、鈴木委員、吉田委員、佐々木委員、北山委員、松澤委員、
角谷委員※、稲澤委員、京野委員、宮川委員、矢部委員、川田委員

※Web参加

■議事内容：

次第に沿って、事務局（千歳市）から説明。資料2は、千歳川河川事務所から説明。

○事務局から、以下の3点について提案し了承された。

- ・この検討会は、公共事業として実施するハード整備などの内容が含まれ、これらは今後議論を重ね決定する事項となることから、議事の詳細は、原則一般公開しないこととする。なお、議事概要及び公表可能な資料は市のホームページで公開する。
- ・会議当日に会場に来られない場合、オンラインによる参加も可とする。
- ・関係団体等の委員の代理出席については、会議当日に委員の都合が悪く代理者の出席の申出があった場合は、会長と相談の上決定する。

○会長、副会長の選出

- ・会長は堀野委員、副会長は菊池委員に決定。

○意見交換における各委員からの発言は以下のとおり。

- ・千歳川沿いは、遊歩道が整備されてから散策する人が増えた印象を持っているが、橋の下を通れない箇所があることや、夜間は暗いことが解消されると更に利活用が進むように感じる。
- ・事務局からの説明でハード施策のイメージは湧いたが、今後どのようなソフト施策を構築するかというのが重要であり、このかわまちづくり計画の成功に繋がるものとする。
- ・2022年のリバーシティプロジェクトでは、スカイランタンを実施し、大きな反響があった。単に暗いから、危険だから明るくするため街灯を設置するのではなく、観光したくなるようなライトアップが継続的にできるとよい。

- ・日中は川辺で様々なアクティビティができるが、継続的な利益を生むような仕組みをつくる前提で整備しないと使われなくなってしまうと思うので、アイデアを出し合っていきたい。
- ・札幌の大通公園のように年中頻繁にイベントを開催できればいいが、単発のイベントでは忘れられてしまう。カフェやチャレンジショップなどのように、日常的に何かを実施でき、そこに人が集まり、にぎわいが生まれるような流れが構築できるとよい。
- ・今回のようなまちづくり、観光振興を推進する際には、地域住民の理解が不可欠である。千歳川沿いは、河川敷の遊歩道のすぐ脇に住宅が張り付いている。オーバーツーリズムも含めて、利用者のマナー（騒音、ごみ、プライバシー侵害等）の問題があると、地域の方は賛成しがたい。
- ・行政と住民の間で摩擦を生じると修復が難しいため、ある程度計画が固まってきた段階で、地域の方にも内容を説明し理解をいただく機会を設けてほしい。
- ・川とその環境（そこに棲む生き物）を上手く活用しながら、共存できるようなスタンスが取れたらいいと思う。
- ・アウトドアが中心になると、冬場のアクティビティが抜け落ちることがある。四季の展開も含めて考えられるといいと思う。
- ・川をいじるということは、人や川の生き物、サケの産卵床への影響など、弊害も出てくるのが考えられるため、慎重に議論しながらも、楽しく賑わいのある空間をつくっていきたい。
- ・まずはメインのターゲットが住民なのか、ウォーターレジャーを楽しむ方なのか、インバウンドまで含めるのか、ある程度意思統一が必要と考える。コンセプトの設定をしっかりと立てながら、足並みを揃えて進めて行けるとよいと思う。
- ・これまでの委員の意見にあったように、継続的な利用や、地域住民への配慮、川の生き物への配慮など、皆様の意見を参考にしながら進めていきたいと思っている。
- ・千歳川の素晴らしい環境の中で、キッチンカーやレストランで食べものを食べて、「来てよかった」、「いい景色を見た」、「おいしかった」と思ってもらえるようなことを考えていきたい。
- ・ちとせ未来ビジョンにおいては、グリーンベルトを中心とした「まちの顔エリア」として、千歳川もその縁辺部としてエリアに含んでいる。計画策定に向けては、このビジョンと整合性を図るとともに、今年度中に具体的な進め方の方針も示される予定であることから、この方針とも整合を図っていくべき。

- ・過去、実際にハルニレ公園からカヌーに乗ったことがあった。カヌーに乗ると、雑踏が無く清流の音のみで非常にいい環境だなと感じるとともに、水流が速いことも実感した。
- ・千歳川は千歳市の自然環境の源であり、貴重な資源・宝だと思っている。この川の素晴らしさをもっと多くの人に知ってもらいたいと思っている。
- ・まずは、生物や景観などの自然を第一に守るということを考えていただきたい。今のままの状態でも、自然を見たいという国内外の観光客は呼べると思うし、工夫して考えていく必要があると思う。
- ・千歳川というものを考えたとき、利用者の導線をどうするのが大事だと思っている。何となく歩いているうちに、その場所に行きつくような人の流れができる導線をどこかに作るのがあるのではないかと考えている。
- ・ターゲットが市民なのか、インバウンドの旅行者なのか、あるいは出張者も相当数来る。こういったことも考えながら、地元住民と来訪者双方にとっていいものにしていきたい。
- ・立派な建物を造るのではなく、想像力を働かせ、ソフト面を十分に考えながら、点と点を繋ぐ線まで想像できるような計画を作っていけたらと考えている。
- ・千歳川沿い、遊歩道の普段使いと環境問題を考えると、ペットボトルのゴミを減らすため、遊歩道や公園などで水筒に給水ができるようなスポットの設置も考えられる。また、過去に、グリーンベルトにドッグランを設置することで、遊歩道とグリーンベルトの繋がりができるという意見もあったと思う。
- ・ゴミをポイ捨てしない、川辺でお花見などをしたあとのゴミを残さない工夫として、自然エネルギーを活用した街灯や、死角になりやすい階段護岸などにおいて、ゴミが捨てられないよう改良する（高さを上げるなど）ことも考えられる。
- ・ハード面の整備自体にも環境問題や気候変動を考えるきっかけも含まれていると、ゼロカーボンシティの実現に繋がると思う。
しかしながら、ハード面の整備をするだけでは、資源を活かすことができないことから、千歳市民全体で千歳川を大切にする気持ちを醸成する必要があると思う。

○「千歳市かわまちづくりに関するアンケート」の実施について

- ・第2回の検討会に向け、各委員にアンケートを実施することについて事務局から説明。

○その他

- ・事務局から、第2回検討会で予定している内容及び次回の開催日を令和6年2月29日（木）を予定していることについて説明。

以上